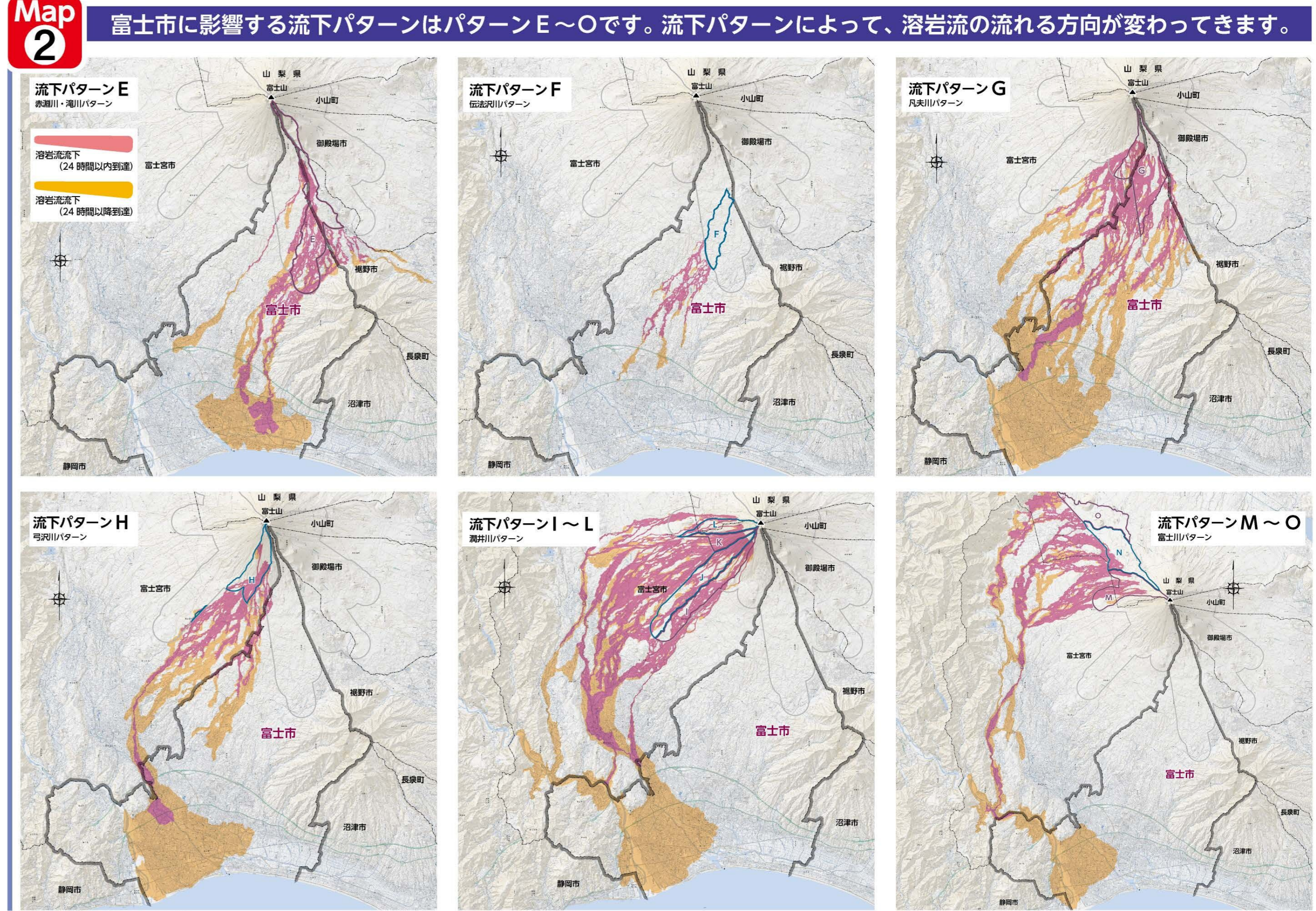
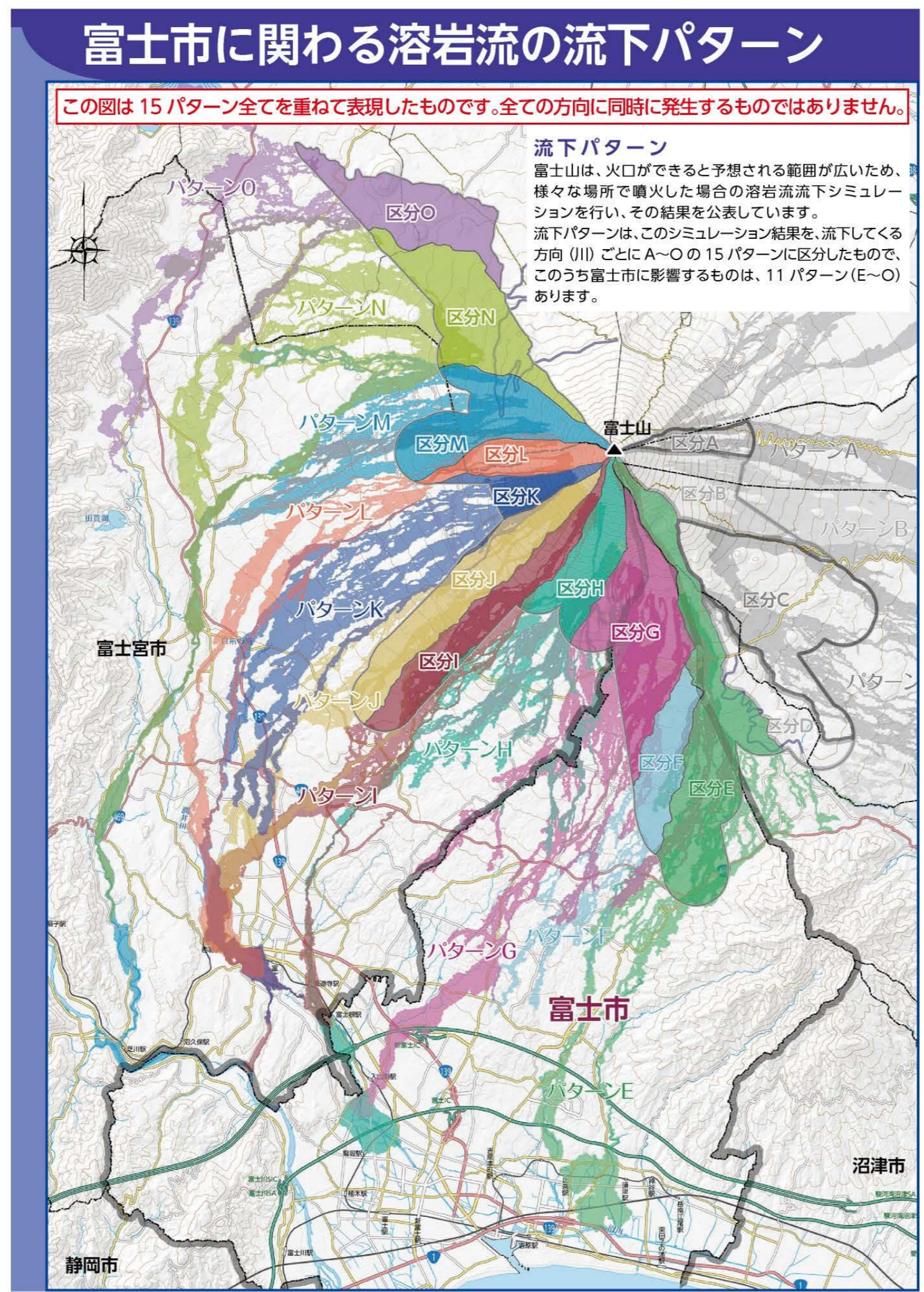


富士市 富士山火山防災マップ

令和 3 年 3 月に新たな富士山ハザードマップが公表されました。このことを受け、市は富士山の噴火に備えて、皆さんが自ら命を守るために、いつ、どこに、どのような行動をすればよいのか、事前に考えていただくために作成しました。マップを確認し、いざという時のために備えましょう。

防災マップに関する問い合わせ先
 富士市役所 危機管理室防災危機管理課
 TEL : 0545-55-2715 FAX : 0545-51-2040
 Eメール : bousai@div.city.fuji.shizuoka.jp

令和 6 年 3 月作成



必ず確認！ 噴火の影響範囲を 避難行動を確認しましょう

Map 1 Map 2 Map 3 表 1 表 2 表 3 で確認しましょう

わが家は... [] 町内会 []

Step 1 溶岩流について確認する

1. Map 1 表 1 表 2 を見て、避難対象エリアをチェックしましょう

Map 1 表 1 表 2 表 3

2. Map 2 を見て、溶岩流が到達する流下パターンをチェックしましょう

Map 2 表 1 表 2 表 3

Step 2 融雪型火山泥流について確認する

1. Map 3 表 3 を見て、積雪期の避難対象エリアをチェックしましょう

Map 3 表 3

2. 表 3 を見て、避難先を記入しましょう

3. 避難先までの経路の確認、また所要時間を確認しましょう

徒歩: [] 分
 車: [] 分

避難行動を把握するためにアンケートの協力をお願いします。右の二次元コードからアンケートのページに移動します。

噴火前の自主避難について

噴火警戒レベル 1 の時に「火山の状況に関する解説情報(臨時)」が発表された場合、自主避難の呼びかけを行います。自主的に安全な場所にある親戚や知人宅へ避難することも一つの手段ですので、普段から避難先を検討しておきましょう。

富士山噴火で想定される現象

噴石 (大きな噴石、小さな噴石)
 噴火時に火口から放出される直径 2mm 以上の岩石の総称。このうち概ね直径 20~30cm 以上の、風の影響をほとんど受けて弾道を描いて飛散するものを「大きな噴石」といい、火口から数 km 先まで飛散することがあります。また、それ以外の「小さな噴石」は、風に流され火口から 10km 程度の場所に降下して被害をもたらすことがあり、注意が必要です。

火砕流 (火砕サージ)
 火砕流は高温の火山灰や岩石、空気や水蒸気が一気となって高速で山体を下りる現象です。また、火砕サージは火山灰まじりの爆風で、火砕流の先端部から分離して生じる場合があります。どちらも流下速度は時速数十 km から数百 km、温度は数百度に達し、発生後に流下コースから避難することは不可能なため、影響が及ぶ範囲では事前の避難が必要です。

溶岩流
 火口から噴出したマグマが、高温の液体のまま重力によって地表を流下する現象で、進路にある森林、田畑、建物等は埋没、焼失します。生命への危険性は高いものの、流下速度は比較的遅く、基本的に徒歩での避難が可能ですが、地形や溶岩の温度・組成などによっては早く流下する場合がありますため注意が必要です。

融雪型火山泥流
 積雪がある時期(積雪期)に山腹に積もった雪が火砕流等の熱で一気に融けて水となり、火砕物や斜面の土砂を巻き込みながら高速(時速 60km を超えることもある)で流下する現象で、影響が及ぶ範囲では事前の避難が必要場合があります。

降灰
 噴火時に火口から放出される直径 2mm 未満の比較的細かい噴出物を火山灰といい、降灰は火山灰が地表に降下する現象をいいます。降灰そのものを原因として、直ちに生命に危険が及ぶことはないため、現象の影響範囲から立ち退く必要性は低いものの、火山灰を吸い込むと呼吸器系の疾患にかかりやすくなるなどの健康被害のおそれがあるため注意が必要です。また、降灰の規模や継続時間は、気象条件によって大きく変化するため、予測は困難です。

降灰後土石流
 降灰や火砕流で流下した火山灰などが山の斜面に堆積した後に起きる土石流のことで、少量の降雨でも発生し、広い範囲に被害を及ぼすことがあります。降灰後だけでなく、降灰中や噴火の終息後も長期間にわたって発生することがあるため、噴火後に雨が予想されるときは、川の近くや谷の出口に近づかないようにする必要があります。

降灰からの避難

▼ 降灰があったら...
 ● 降灰そのものにより命に危険が及ぶ可能性は低いため、降灰が見られた場合、原則として自宅や近隣の堅牢な建物への屋内退避をお願いします。

▼ 避難するときは...
 ● 木造家屋では、屋根に 30cm 以上火山灰が積もると、屋根が抜けた建物が壊れたりすることがあります。この場合、近隣の鉄筋コンクリート造などの堅牢な建物に退避する必要があります。
 ● 降灰により視界が遮られたり、スタックしたりするおそれがあるため、自動車での避難は危険です。
 ● 避難するときはヘルメット、ゴーグル、マスクを着用し、身の安全を確保しましょう。

ヘルメット
 ゴーグル
 マスク
 リュック
 長袖の上着
 手袋
 長スボン
 運動靴

降灰深
 50cm 以上
 30~50cm
 10~30cm
 2~10cm

季節や天候によって火山灰の到達範囲や降灰量は変わります。

情報の入手先 噴火発生時の危険性が高まっている時、また噴火発生時には、正しい情報を入手しましょう。

防災情報及び避難情報の入手

気象庁・消防庁
 報道機関
 テレビ・ラジオ
 Jアラート・プッシュ型通知サービス

住民

富士市

同報無線放送・防災ラジオ
 富士市 Web サイト
 富士市の防災情報一覧
 防災ふじ(富士市防災アプリ)
 富士市公式 LINE
 同報無線情報や発令中の避難情報や富士市の停電・気象情報、河川の水位情報、ハザードマップなどの情報を入手できます。
 富士市メールサービス(富士市情報サービス)
 [日本語・英語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語]

富士市の防災情報(気象庁)
 気象庁が提供する発表中の防災情報、雨雲の動き、天気予報、アメダス、地震情報などが閲覧できます。

静岡県の公式防災アプリ

家族に安否を知らせるために...

災害用伝言ダイヤル(171)
 災害が発生し、被災地への通話がつながりにくい状況になった場合に提供が開始されます。

伝言の録音方法
 伝言の再生方法

伝言を入れる(30秒以内)
 伝言を聞く

災害用伝言板(web171)
 インターネットを利用した安否確認の伝言板です。パソコンやスマートフォン、携帯電話等で利用できます。

利用方法
 web171へアクセス
 被災地の人の電話番号を市外番号から入力
 伝言を登録・確認